

**2017年度第2回NGO-JICA協議会@北海道** 【協議事項1-2】

# 滝川の国際交流・国際協力

世界に誇れる国際田園都市を目指して  
～滝川から世界へ、世界から滝川へ～



2017年10月17日  
滝川市産業振興部観光国際課 山内 康裕  
((一社)滝川国際交流協会)

マラウイ共和国  
ロビ地区カウア  
村にて



# 滝川市概要

## 滝川市概要

人口: 41,420人 (H28年7月末日)

世帯数: 21,483世帯

面積: 115,82平方キロメートル

屯田兵入植: 1890年(明治23年)

市制施行: 1958年(昭和33年)

姉妹都市:

米国・マサチューセッツ州スプリングフィールド市

(バスケットボール発祥の地)

友好親善都市: 沖縄県名護市

栃木県栃木市

交通: 札幌からJRで約50分 車で約60分

新千歳空港から特急で約80分、車で約90分

旭川からJR特急、高速道路で約30分

## 滝川スカイパークのグライダー



## 満開のコスモスと丸加高原



滝川市全景

# 全国一の栽培面積を誇る 「菜の花」



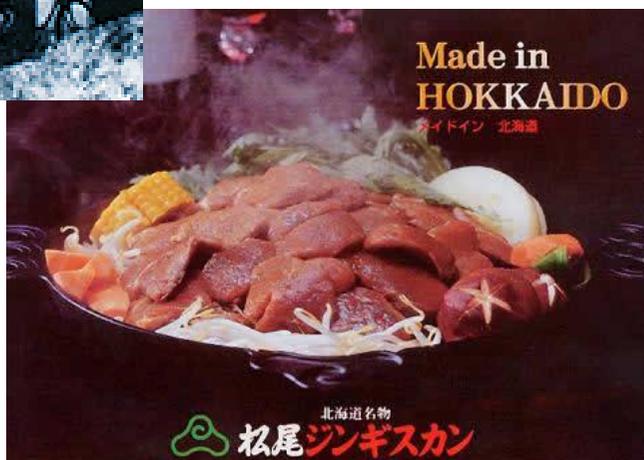
# アジアNo.1のグライダー滑空場





松尾ジンギスカン開業当時社屋(昭和31年)

味付きジンギスカン発祥の地  
=滝川



Seriou Fun(映画俳優ポール・ニューマンが創始者)  
ネットワークの一員である

## そらぷちキッズキャンプ



## 滝川の国際交流・国際協力の変遷と現状

### 滝川と世界の関わり

- 入植時の米国人農業技術者との関わり
- 北海道人造石油(株)(滝川工場)のドイツ人技術者(2名)
- 昭和30年代のブラジル等南米への移住

北海道人造石油(株)研究所棟  
(現在、自衛隊滝川駐屯地)



## 滝川の国際関係施策の節目

- ◆1985年 北方都市市長会議参加(現・冬の都市市長会議)
- ◆1987年 JET英語指導助手配置(北海道初代配置8名のうちの1名)
- ◆1989年 スウェーデン・キルナ市との関わり
- ◆1990年 **滝川市国際交流協会設立**、ダルニー奨学金への取り組み、  
**ジュニア大使訪問団派遣開始 JET国際交流員配置**
- ◆1993年米国マサチューセッツ州  
**スプリングフィールド市との姉妹提携**
- ◆1995年 **JICA青年招へい事業  
の受入開始**
- ◆1997年  
国際交流協会の社団化  
**社団法人滝川国際交流協会誕生**



- ◆2000年
  - JICA草の根地域提案型事業によるアフリカ・マラウイ共和国  
農業技術研修員の受入開始
  - 国際交流フェスタ開始
  - イリマニの会等NGOとの連携
  - 青年招へい事業の受け入れ国多様化
- ◆2001年
  - 「イリマニの会」が「平成13年度世界に開かれたまち総務大臣  
表彰」受賞
  - JICA水道技術研修員(エチオピア)を受入
- ◆2002年
  - 国際協力研修バス開始
  - JICAアフリカ・マラウイ共和国農業調査団派遣(滝川から初め  
ての現地派遣)

## ◆2003年

- JICA札幌が「北のまちからアフリカへ」ビデオ製作
- イリマニの会「平成15年度毎日国際交流賞」受賞
- JICAマラウイ共和国農業技術専門家派遣開始
- 「アフリカ・マラウイを知る」スタディーツアー開始

## ◆2004年

- JICAブータン王国農業技術研修員受入開始
- JICA滝川プロジェクト調査評価団派遣

## ◆2005年

- JICAマラウイ共和国農業技術研修員受入地域提案型最終年
- マルチアクター参加による国際交流・国際協力推進全国会議
- 日欧パートナーシッププロジェクト・滝川プログラム
- 平成17年度地域づくり総務大臣表彰(国際化部門)
- 平成17年度北海道社会貢献賞(国際協力功労者)

## ◆2006年

- JICAマラウイ共和国農業技術研修員受入が国別研修へ移行
- 滝川マラウイクラブ結成(関係者による国際協力支援団体)
- 「姉妹都市スプリングフィールド市とバスケットボール殿堂館日本移動展」

## ◆2007年

- JENESYSタイ高校生受入
- JICA青年招へい事業が青年研修事業へ  
(「カンボジア王国理数科教員」受入)
- JICAオフィシャルサポーター  
元プロテニスプレーヤー伊達公子さん、来滝



伊達公子さんとマラウイ研修員

## ◆2008年

- ハロウィンホーンテッドハウス
- JENESYSベトナム高校生受入
- JICA青年研修事業【アフリカ混成(英語)/経済  
【中小企業振興】】
- JICA自治体職員等国際協力実務研修in滝川
- マラウイ共和国青年海外協力隊員とのテレビ会議

## ◆2009年

- アフリカ・マラウイ共和国へのJICAシニアボランティア派遣
- 滝川市・スプリングフィールド市市民訪問団派遣
- JENESYSマレーシア高校生受入
- JICA青年研修事業【中南米混成農村振興】
- ベトナム・カンボジアスタディーツアー開始
- 世界を知る講演会「カンボジアの空の下で」

## ◆2010年

○國學院大學北海道短期大学部・スプリングフィールド大学教育交流促進  
宣言調印

○JICA青年海外協力隊技術補完研修研修員受入

○北方四島ビザなし交流事業受入 ○第2回ベトナムカンボジアスタディーツアー

## ◆2011年

○総務省自治体職員協力交流事業(LGOTP)モンゴル国農業技術研修員受入事業

○JICAアフリカ地域農産品加工研修員受入事業

○JICA草の根技術協力事業カンボジア王国シェムリアップ市対象「音楽教育を活用した教員の授業実践力向上プロジェクト」

○JICAモザンビーク農村振興研修員  
受入事業

○英検の2次試験年間受験者  
過去最高626人

○第3回ベトナムカンボジア  
スタディーツアー

○JETプログラム国際交流員を増員  
(モンゴル国)



## ◆2012年

○総務省クレアLGOTP事業モンゴル国農業技術研修員受入事業

○総務省クレアモデル事業モンゴル国・ウブルハンガイ県農業専門家派遣事業

○JICAアフリカ地域農産品加工研修員受入事業

○JICA草の根技術協力事業カンボジア王国シェムリアップ市対象「音楽教育を活用した教員の授業実践力向上プロジェクト」

○JICAモザンビーク農村振興研修員受入事業

○JICAアフリカ職業訓練研修員受入事業

○JICAベトナム社会主義共和国  
農村振興研修員受入事業

○第4回

「ベトナム・カンボジアスタディーツアー」

○JETプログラム国際交流員を増員  
(中華圏)



## ◆2013年

## ○4月1日一般社団法人滝川国際交流協会へ変更

- 自治体職員協力交流事業モンゴル国農業技術研修員受入事業
- 自治体国際協力促進事業モンゴル国・ウブルハンガイ県農業専門家派遣事業
- JICAアフリカ地域農産品加工研修員受入事業
- JICA草の根技術協力事業カンボジア王国シェムリアップ市対象「音楽教育を活用した教員の授業実践力向上プロジェクト」
- JICAモザンビーク農村振興研修員受入事業
- JICAベトナム社会主義共和国  
農村振興研修員受入事業
- JICAアフリカ職業訓練研修員  
受入事業
- 第5回  
「ベトナム・カンボジア  
スタディーツアー」



## ◆2014年

## ○スプリングフィールド大学メアリー・ベス・クーパー学長来滝

- 自治体職員協力交流事業モンゴル国農業技術研修員受入事業
- 自治体国際協力促進事業モンゴル国・ウブルハンガイ県農業専門家派遣事業
- JICAアフリカ地域アグリビジネスの振興と農村開発(B)コース研修員受入事業
- JICA草の根技術協力事業カンボジア王国シェムリアップ市対象「音楽教育を活用した教員の授業実践力向上プロジェクト」(最終)
- JICAモザンビーク農村振興・技術セミナーコース研修員受入事業
- JICAアフリカ職業訓練研修員受入事業
- クレアモデル事業活用  
アナコットカンボジア縫製技術指導者  
育成事業
- 第6回  
「ベトナム・カンボジアスタディーツアー」
- 国際田園都市TAKIKAWAの20年後  
プレゼンテーションコンテスト開始





## ◆2015年

### ○シンガポール国際交流員着任

○米国マサチューセッツ州ロングメド一高校一行12名

### ○米国マサチューセッツ州ロングメド一高校・滝川西高姉妹校提携

○自治体職員協力交流事業(LGOTP)

モンゴル国ウブルハンガイ県農業技術研修員受入事業

○自治体国際協力促進事業モンゴル国自動車技術研修員受入事業

○JICAアフリカ地域アグリビジネスの振興と農村開発(B)コース研修員受入事業

○JICAモザンビーク農村振興・技術セミナーコース研修員受入事業

○JICA青年研修モルディブ職業訓練研修員受入事業

○アナコットカンボジア縫製技術指導者育成事業

○第7回

「ベトナム・カンボジアスタディーツアー」



## ◆2015年

### ○シンガポール国際交流員着任

○米国マサチューセッツ州ロングメド一高校一行12名

### ○米国マサチューセッツ州ロングメド一高校・滝川西高姉妹校提携

○自治体職員協力交流事業(LGOTP)

モンゴル国ウブルハンガイ県農業技術研修員受入事業

○自治体国際協力促進事業モンゴル国自動車技術研修員受入事業

○JICAアフリカ地域アグリビジネスの振興と農村開発(B)コース研修員受入事業

○JICAモザンビーク農村振興・技術セミナーコース研修員受入事業

○JICA青年研修モルディブ職業訓練研修員受入事業

○アナコットカンボジア縫製技術指導者育成事業

○第7回

「ベトナム・カンボジアスタディーツアー」

## ◆2016年

○国際屋台@道の駅滝川初開催(6か国7種類)

○シンガポール映画「イロイロぬくもりの記憶」上映会

○JICA青年研修ベトナム自然環境保全コース研修員受入事業

○JICAアフリカ地域農村開発のためのアグリビジネス振興(B)コース研修員受入事業

○JICAモザンビーク国別研修「農村振興・技術セミナー」コース研修員受入事業

○JICA青年研修ミャンマー地方行政コース研修員受入事業

○**モンゴル国農業技術専門家派遣事業(滝川国際交流協会独自事業)**

○「世界を知る講演会」

・ベトナム農村支援NGO「Seed to Table」代表 伊能 まゆ 氏

・国連開発計画(UNDP)駐日代表 近藤 哲生 氏

・カリフォルニア大学サンディエゴ校教授 當作 靖彦 氏

○シンガポールスタディーツアー「光と陰を学ぶ旅」

○**JICA草の根技術協力事業(地域提案型)モンゴル国ウブスハンガイ県対象**

「北海道滝川市発～地方農民の収入向上を目指したアグリビジネス振興プロジェクト」

## JICAアフリカ地域農村開発のためのアグリビジネス振興(B)コース



## JICA国別研修「モザンビーク農村振興」コース



## JICAベトナム集団研修 「農民参加による農業農村開発（A）」コース



## JICA青年研修 「アフリカ（英語）職業訓練教育」コース



## 滝川市内小学校教員によるカンボジアでの 授業指導（JICA草の根技術協力事業活用）









## 世界の料理教室





# たきかわ 紙袋ランターン フェスティバル





## Winter FunDay Since 2002



## 英会話講座

## 語学講座開講



## 中国語講座



## 韓国語講座

○ジュニア大使訪問団派遣事業  
1990年～

○米国マサチューセッツ州ロングメドー高校・西高  
姉妹校提携

○Takikawa Friends  
設立



2002年  
「ユース・フォーラム  
in たきかわ」  
@滝川西高等学校

2015年  
滝川西高  
米国マサチューセッツ州  
ロングメドー高校  
姉妹校提携調印式  
@滝西







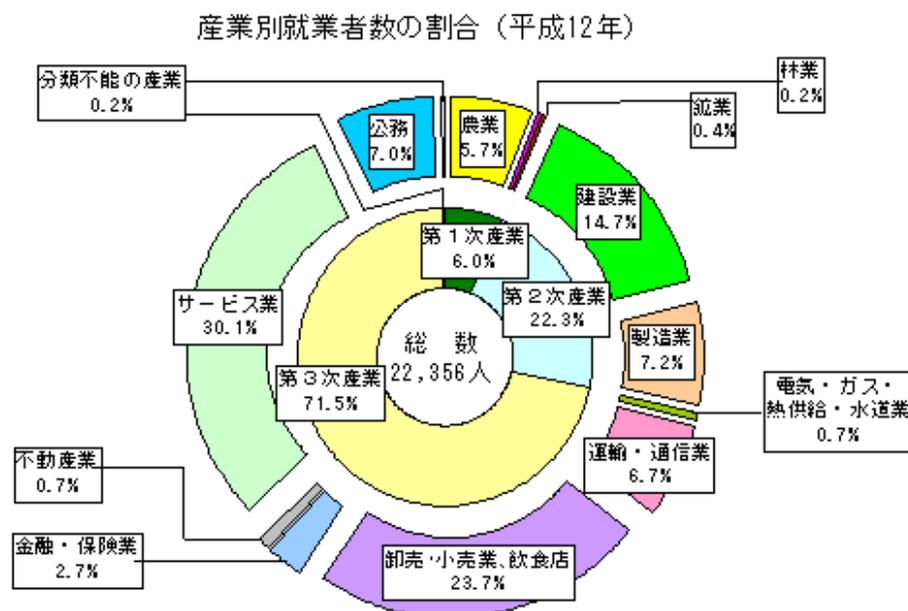
## 滝川からのスタディーツアー派遣

- ◇2004年 1月 第1回アフリカ・マラウイ共和国(6名)
- ◇2004年11月 第2回アフリカ・マラウイ共和国(4名)
- ◇2006年 1月 第3回アフリカ・マラウイ共和国(6名)
- ◇2008年 1月 第4回アフリカ・マラウイ共和国(7名)
- ◇2010年 1月 第1回ベトナム・カンボジア(13名)
- ◇2011年 1月 第2回ベトナム・カンボジア(12名)
- ◇2012年 1月 第3回ベトナム・カンボジア(9名)
- ◇2013年 1月 第4回ベトナム・カンボジア(10名)
- ◇2014年 1月 第5回ベトナム・カンボジア(6名)
- ◇2015年 1月 第6回ベトナム・カンボジア(8名)
- ◇2016年 1月 第7回ベトナム・カンボジア(6名)
- ◇2016年10月 第1回シンガポール(4名)

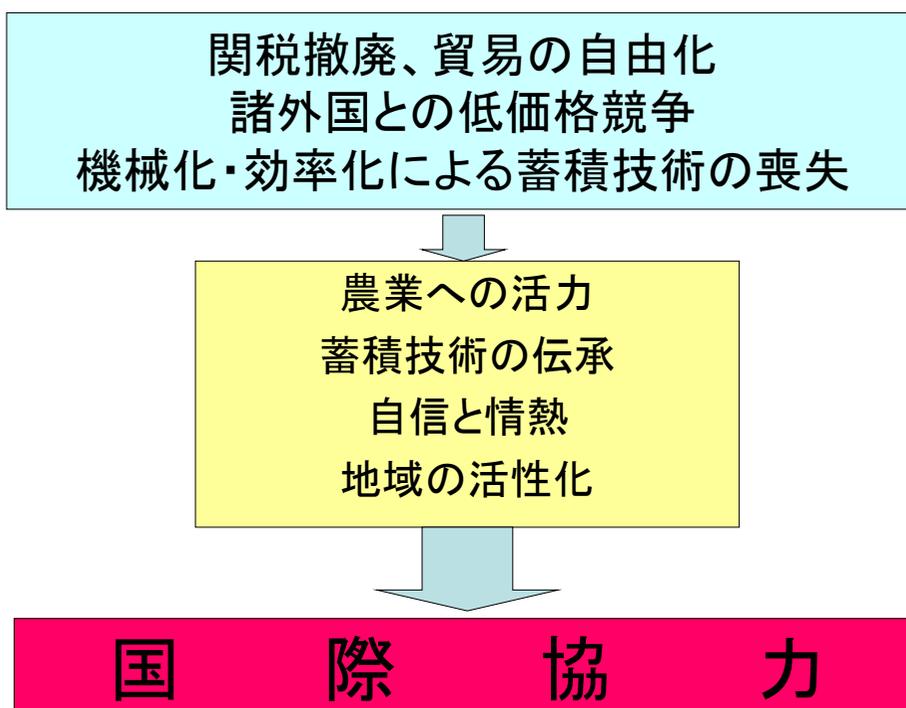
○市民が専門家派遣に刺激を受け、自費負担(マラウイ:29.8万円、ベトナム:19.8万円、シンガポール14.98万)で、現地生活を体感。国際協力・国際交流への認識を深める。

# なぜ？

## 滝川で国際協力？



資料：総務省統計局「国勢調査」



### 事業導入への視点

- ① 農業の活性化＝町の活性化
- ② 農業活性化への農業以外の力の活用
- ③ 自信の回復への一助
- ④ 技術の向上への一助
- ⑤ 国際的視野、自己研鑽
- ⑥ 地域活性化への検討材料
- ⑦ 地域活性化への足がかり

## なぜ、滝川で農業による国際協力か？

- 全国トップクラスの優れた農業関連機関
- JAたきかわ、農業改良普及センター等の指導機関
- 稲作、畑作、花、果樹と多岐に渡る優れた農業者の存在
- 加工技術を持つ主婦団体等
- 「心」と「心」を通わせる市民応援団

総合プロデュースができるまち

- 全国トップクラスの優れた農業関連機関



## 滝川でなきゃできない途上国支援

- 土日もとわぬ温かい心の通った市民交流  
→心の琴線に触れる「人」と「人」とのつながりを通して日本のファンを増やすことに寄与
- 途上国での実践を見据えた現場主義で質の高い農業技術研修  
→古き良き伝統を知る農業一筋40年以上のベテランによる日常的な指導・実践は大都市ではできない

- 民間組織、行政組織、個人、団体が一体となった受入
- 共に育とうとする姿勢を持つ受け入れ機関と関係者
- 外部の人たちを温かく迎え入れようとする土壌
- 様々な郷土文化が混在する地域性  
→滝川ならではの一体感を持った受入

## 国際協力事業等のインパクト

### ○平成12年度

#### 来滝外国人日数

・北方圏センター研修員	43名 × 1日 = 43人日
・マ州高校生	6名 × 1日 = 6人日
・韓国訪問団	6名 × 2日 = 12人日
・ス市訪問団	14名 × 4日 = 56人日
・南ア研修員	4名 × 1日 = 4人日
・タイ青年	23名 × 7日 = 105人日
・マラウイ	1名 × 110日 = 110人日

合計 336人日！

### ○平成28年度

#### 主な外国人来滝人日数

・ベトナム	17名 × 23日 = 391人日
・モンゴル	3名 × 28日 = 84人日
・アフリカアグリ	10名 × 54日 = 540人日
・モザンビーク	9名 × 38日 = 342人日
・ミャンマー青年	17名 × 16日 = 272人日
・タイ中高生研修	20名 × 28日 = 560人日

合計 2,189人日！

約7倍に！

実日数126日

実日数187日！

約1.5倍！

## 国際交流事業等のインパクト

◆平成28年度のデータから

### ◆ホテル等への直接効果

宿泊1泊宿泊費6,000円、食費等 1人1日最低1,000円を使うと見積もって、1,629人日と考えると…1,140万円！

○協会事業費 約3,700万円

(うち会費200万円、JICA収入1500万円)

### ○主な来滝外国人による直接効果

・ベトナム	17名 × 23日 = 391人日
・モンゴル	3名 × 28日 = 84人日
・アフリカアグリ	10名 × 54日 = 540人日
・モザンビーク	9名 × 38日 = 342人日
・ミャンマー青年	17名 × 16日 = 272人日

合計 1,629人日！

### 参加人数の事業インパクト

- ・ハロウィンのお化け屋敷: 150人
- ・国際屋台: 300人
- ・世界を知る講演会: 200人
- ・世界の料理教室等: 500人
- ・各種語学講座: 300人
- ・英検事業: 700人
- ・その他学校訪問事業等

合計約4,000人  
(人口比約10%)

### ●学校教育・社会教育へのインパクト

Q: ALTとして雇っていたら

…1日1.5万円 × 1,629人日  
= 2,443万円！！

### ●外国人との触れ合い

→多様な文化に触れ理解する感動と喜び、世界の広がり

### ●多様な出身国

→国際社会に対応できる人材

**金銭に換算できない将来投資！！**

◆敢えて金銭換算すると、少なく見積もって8,000万円以上、経済原則で2億円以上の経済効果！！

## 国際協力・交流が滝川に何をもたらしたか？

- ◎外国や外国人に対する意識の変化
  - ～外国人がいることに違和感がない
    - ↑世界をステージ戦うための最低条件
  - ～日本語で話しかける子供達
    - ↑外国人という意識がない。
      - 1人の人間としての意識。平和貢献へ。
  - ～外国人が居心地の良い町
    - ↑ジロジロみられる感じがしない。心地よい町
      - 道に迷っている人を宿舎まで連れて行く市民
  - ～外国人→〇〇国の人→〇〇さん
    - 〇〇さん、どうしているかなあ、
    - 偏見、差別のない世界へ：世界平和

## 国際協力・交流が滝川に何をもたらしたか？

- ◎自らの技術への自信
- ◎自らの技術の向上←自己研鑽への意識
- ◎仕事への励み
  - ↑〇〇さんが、あの国で頑張っているのに、自分も頑張らないと、、、
- ◎生活世界の拡大
  - ↑生き甲斐←健康←医療費削減←地域活性化の一助
- ◎生徒達の変化、大人達の変化
  - ↑ホームビジット、イベント、各種スタディーツアー、
- ◎滝川の人たちは「国際協力」を知っている
  - ↑研修員受入等の効果大！！

## 世界に誇れる国際田園都市 ～ タキカワ ～

- Local to Local
- 技術研修都市としてのステータス確立  
→民間組織、企業、国、道等の支援と連携
- 「国際」を軸に、産業クラスターを。
- グライダー、ソフチキッズキャンプ、アートチャレンジタキカワ、  
美術自然史館・タキカワイギョウ、福祉、医療、芸術、  
教育、産業等々の連携・連帯
- 世界の人々が集い、語らうまち  
→多文化共生、世界に羽ばたく人材の育成

